

2021年度事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

特定非営利活動法人こども∞感ばにー

1.活動のまとめ

“子どもの笑顔が地域のなかで育まれるまちに”を理念に、(1)すべての子どものための居場所に関する事業「プレーパーク」「フリースクール」と「地域・民間団体との連携」、(2)子育てサポート事業に軸をおき、新型コロナウイルス感染症の影響は、一部の活動を除いてほぼ通常通り行うことができました。

プレーパークでは、地域の人が気軽に立ち寄れるための工夫と環境づくりが始まり、ボランティアの数も増えたことで、子どもを見守る目が充実してきました。

フリースクールでは、不登校の保護者のための会を開催した他、登録児童生徒の出席扱いにする学校の増加、石巻市との連携による子どもの受け入れなど活動の広がりをみせています。

“地域の子どもは地域で見守り育てる”を合言葉の地域連携活動では、渡波中学校区のキーパーソンが集い、主体となって学校との関係を構築し、他の地区から視察依頼があるなど地域のモデルケースになりつつあると感じています。

石巻市、石巻圏内、宮城県それぞれで子どもを取り巻く課題改善に向けた話し合いが繰り広げられました。少しずつではありますが、本会の理念達成に向けて前進していると感じた一年でした。

また、6月には内閣府より「認定NPO法人」の認証をいただき、新たな一步を踏み出しました。

本会の基盤強化がおこなえたのと同時に、これからも地域の方をはじめ、全国のみなさまと共に、理念達成に向けて進んでいこうと、襟元を改めてただした一年となりました。

《重点目標》 ※2021年度事業計画より

①プレーパークを拠点に地域連携体制の構築

渡波地区と鹿妻地区のプレーパーク事業が、地域活動と連携することで「地域の子どもは地域で見守り育てる」が実現する。そのため、渡中学区WWI、黄金浜げんき会（自治会）、子ども会や保護者と、イベントの企画実施を通じてコーディネート役を務め連携体制を構築する。

→渡中学区WWIでは、メンバー同士の信頼関係も深まり主催の活動も開始し、プレーパークわたのはの夏祭りにも協力するなど活動が活発化し意識の統一も確立しつつある。また、自治会活動と子どものパイプ役を務め、地域の大人と子どもがつながる機会を増やすなど、少しずつではあるが地域の人たちがつながり始めている。地域コミュニティの構築には長い期間を要するが、今後も一步一步みんなに進んでいく。

※「渡中学区WWI」9Pに掲載

②石巻市の不登校児童生徒が安心して暮らすためのネットワーク構築と取り組み

2019年度の石巻市の不登校数は283名と、増加の一途をたどるなか、市内では対応がほとんどないことから、不登校支援に関わる団体や個人、市民や当事者と共にネットワークをつくり、孤立している不

登校児童生徒すべてが、心と居場所の安定を図れる環境で過ごすことを目指す。

→石巻市教育長と不登校保護者が懇談し、石巻の不登校の現状とフリースクールの運営紹介が実現した。また、子ども若者支援地域協議会や石巻市不登校支援団体懇談会、宮城県不登校連絡会議など、県内で不登校を取り巻く意見交換の場が動き出した。

市内の子ども・若者相談センターとの連携も深まり、子どもの情報共有や事例検討、本会への紹介など昨年と比較しその数は増えている。

石巻市内でも5月に、不登校を考える“まずは石巻から不登校という言葉がなくすネットワーク”を設立し市民活動を開始。不登校で悩む保護者のための講演会と親の会を開催（本会と共催）し、親の会の定期開催など多様なネットワークが構築された。

※「まずは石巻から不登校という言葉がなくすネットワーク」10Pに掲載

③宮城県の不登校児童生徒の居場所に関する取り組み

宮城県が、不登校率が全国一位(石巻市も割合は上位)という現状から、県内の不登校支援団体で構成する、多様な学びを共に考える・みやぎネットワーク（通称：みやネット）の一員として活動を行い、民間のフリースクールへの補助金制度、当事者の利用料補助制度に向けて取り組みをおこなう。

→宮城県不登校連絡会議の構成団体として、不登校対応マニュアルの改訂や教育機会確保法の県民への周知について協議に参加し、次年度も引き続き協議を行うことになった。民間フリースクールへの補助金制度について「学習支援員」導入について石巻市に提案中だが、チャンスフォーチルドレンの学習クーポン導入が可能となり保護者負担が軽減できることで、安心して利用できる要素が増えた

※「多様な学びをともにつくる・みやぎネットワーク」10Pに掲載

2. 事業報告

(1)すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業

◆プレーパーク事業

●プレーパークわたのは

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>◎この3年間で渡波中学校区の子どもにとって居場所の一つとして認知されることを目指す。</p> <p>◎子どもが思いきり遊べる環境を整備し続け、多様な大人と関わる機会をつくる。これにより、子どもの自己受容や他者理解の精神を育む。</p> <p>◎「遊び」という間口から、スタッフは子どもと信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる第三の居場所を確立する。</p>	<p>◎金曜日/14：00-17：00 土・日曜日/10：00-16：00</p> <p>◎スタッフ2名配置</p> <p>◎ボランティア延39名</p> <p>【環境整備】</p> <p>①こいのぼり設置(4月)</p> <p>②サミー号撤去（6月）</p> <p>③ゴールドビーチ壁修繕（9月）</p> <p>④ウッドデッキづくり（1月） ※コロナで延期中</p> <p>【イベント】</p> <p>①夏祭り(8月) 子ども60名、大人41名、親子11組参加</p> <p>②雪まつり(12月)子ども企画</p> <p>【地域連携】</p> <p>①黄金浜南地区ゴミ拾い参加（12回）</p> <p>②黄金浜側溝掃除(11月)</p>	<p>【環境整備】</p> <p>◎サミー号の撤去やゴールドビーチ壁補修を行いハザードになり得るものを取り除くことで、プレーパークの安全性の確保と景観の印象改善が図れた。</p> <p>【地域連携】</p> <p>◎自治会のゴミ拾いへの参加や側溝掃除の企画・実施により関係性が深まり、子どもと地域をつなぐことができた。</p>
開催回数	140回	148回	
来所人数	子ども延3,000名(70名増加) 大人延1,020名 合計:4,020名	子ども延2,758名(前年比+527名) 大人延929名(前年比+131名) 親子延348組（前年比+21組） 合計:3,687名(前年比+658名)	

【来所者のエピソード】

・ Kさん（未就学児/男子）

コロナ禍でなかなか家を出れず、狭い家の中で親子共にストレスが溜まっていたが、プレーパークでスタッフや子どもと遊ぶことでストレスを発散していた。「父親には手をあげないが、スタッフには手を上げてわがまを言う。それくらい子どもが気を許している」と話し、親子が安心して過ごせる場になっていることがわかった。

・ Mさん（小学6年生/女子）

一人親で母親も仕事で家にいない時間が多く、頻りにプレーパークを来所し、スタッフに学校

での出来事や趣味について話したり、悩みを相談するなど、プレーパークが居場所になっていると感じた。

【課題】

- ・地域の人や保護者、新規の人が利用しやすい環境を整える
- ・人材育成・体制づくり
- ・事業の成果のデータ化→目的の確認も必要『目的：行政への働きかけ、助成金獲得のため』

●プレーパークわたのは（平日）

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎未就学児親子を中心に、地域コミュニティづくりを継続しておこない、多世代が助け合える関係を構築する。 ◎不登校の子どもや、地域高齢者も含めた交流の場をつくる。 ◎2022年度以降、平日の開催を地域住民に移行していくための体制づくりをおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎火・木・金曜日/10：00－14：00(※5月まで) 火曜日/10：00－14：00(※6月から) ◎体制：スタッフ1名配置 【イベント】 ①お下がり会（2回/10月） ②焚き火会（11月） ③クリスマスクラフト（12月） ④母親対象プレイワーク講座（3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域連携：保護者と子どもを見守り関わる大人が増えた。2022年度から母親たちの自主開催に移行するが、それを前に未就学児親子を中心とした地域コミュニティが生まれ始めた。
開催回数	70回	69回	
来所人数	子ども延760名 大人延532名 合計：延1,292人	子ども延603名(前年比-357名) 大人延440名(前年比-177名) 親子延290組(前年比-221名) 合計：1,043名(前年比-534名)	

【来所者のエピソード】

- ・年度末にKさんが3人目を妊娠。妊娠中のストレスを他の母親たちがサポートしていた。Kさんが疲れている時は、自分の子どもと一緒にKさんの子どもを見守り、「寝ててもいいよ」と優しく声をかける。出産時は母親たちが交代で子どもを預かるなど、サポートし合うコミュニティが誕生した。Mさんも「こんなコミュニティがあるなら、もう一人産んでも大丈夫かなと思える」と話していた。

【課題】

- ・平日の母親たちの自主開催時に、小学生たちが来所した場合の対応に不安を抱いている。

●鹿妻プレーパーク“ひがこー”

	目 標	実 績	成 果
内容	<p>◎プレーパークを継続して開催することで、創造力や探求心が育つ環境をつくる。</p> <p>◎「遊び」という間口から、多様な大人と関わる機会をつくり、スタッフは子どもと信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる第三の居場所を確立する。</p>	<p>◎水曜日/15:00-17:00</p> <p>◎体制：スタッフ2名配置</p> <p>◎ボランティア：2名：延べ15回（うち定期的ボランティア1名・14回）</p> <p>【環境整備】</p> <p>①倉庫内の棚作成（4月）</p> <p>②倉庫雨漏りのため屋根づくり（12月）</p> <p>【イベント】</p> <p>◎一日あそび場3回(7月、8月、1月)</p> <p>【地域連携】</p> <p>◎鹿妻小学校との子どもに関する情報交換(8月・1回)</p> <p>【広報】</p> <p>◎ひがこーポスター掲示、会報誌配布（各30部）</p>	<p>【環境整備】</p> <p>◎倉庫内に棚を作成し、子どもが道具で遊びやすくなった。</p> <p>◎倉庫の雨漏りを改善したことで、長期間使用の整備ができた。</p> <p>【地域連携】</p> <p>◎鹿妻小学校授業サポート「農村クラブ」へ参加。子どもを地域で見守る体制づくりを行った。学校への行き渋りのある子の情報交換を行い、関わり方の方針を決めた。</p>
開催回数	51回 (うち夏季・冬季休み各一回 一日遊び開催：10:30～16:00)	49回	
来所人数	子ども延1,300名 大人延300名 合計：延1,600名 開催時の地域住民の見守り：5名	子ども延904名(前年比-101名) 大人延150名(前年比-19名) 親子延106組 合計：1,054名(前年比-120名)	

【来所者のエピソード】

・Mくん（小学五年生/男子）

「僕、あんまり学校に行っていないんだよね。だけど、ひがこーがある水曜日は学校に行けるんだ」と話す。ひがこーが遊びの保障の場だけでなく、安心して過ごせる居場所になっている。

・Sくん（小学五年生/男子）

水曜日に塾に通っているため、ひがこーには来たくても来れなかった。しかし、どうしても来たかった本児は、親に「塾の曜日を変えたい」と伝えたことでひがこーに来れるようになった。親に自分の意志を伝えたことで褒められたとも話す。

・Cさん（ボランティア/男性）

11月から毎週毎週活動に参加し、子どもの見守りを行ってくれている。「なんで毎週来てるのが考えた時に、俺自身が楽しい居場所になっているんだよね」と話す。

【課題】

- ・『ながら相談窓口』設置の必要性がある。
- ・ボランティアを含めたスタッフの体制構築と人材育成。
- ・開催回数が増えたにもかかわらず、前年度と比較し来所数が減少した。

●プレーパーク・プレイワーク普及事業

【目的】

地域の子どもの孤立をなくし、安心して暮らせる社会になるため、市民にプレーパーク及びプレイワークを普及する。

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎プレイワークを理解する大人を増やし、地域住民と協働で子どもを見守る体制をつくる。 ◎普及活動を行うことで、子どもの自由な遊びの機会を増やす。 ◎プレーパークを利用する子どもの意識調査：渡中学区3校全生徒（約1000名） ◎プレイワーク講座：参加人数10名 ◎定期的（月1回以上）に来所する地域の方、ボランティア：3人 	<ul style="list-style-type: none"> ①移動式プレーパーク <ul style="list-style-type: none"> ◎第1回（7月） 場所：河北地区・二子団地 ◎第2回（9月） 場所：河北地区・二子団地 ◎第3回（3月） 場所：南浜津波復興祈念公園雲雀野広場 ②プレイワーク講座（3月） 場所：プレーパークわたのは 参加人数：子ども8名、大人5名 	<ul style="list-style-type: none"> ◎誰でも参加できるイベントにより、乳幼児から高齢者まで分け隔てなく交わる時間となり、多世代交流の機会となった。
開催回数	移動式プレーパーク ※名称を「新規プレーパークサポート」から「移動式プレーパーク」に変更 3か所 回数：延べ5回 振り返り会5回 計10回	3回	
来所人数	子ども延150名 大人延100名 合計：250名	<ul style="list-style-type: none"> ◎第1回：子ども26名、大人19名、親子11組 ◎第2回：子ども19名、大人16名、親子6組 ◎第3回：子ども31名、大人18名、親子14組 	

【課題】

- ・住民との共同企画は、コロナ感染症やその他の価値観が多様なため、予定通りの実施が難しかった。開催形式の検討が必要である。

◆フリースクール事業

●フリースクール“ぼはっく”

【目的】

安心して過ごせる居場所や、「やってみたい」を実現できる環境をつくり、学校に行けない子どもが、社会の中で自立するためのサポートをおこなう

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎2024年度までに石巻市の不登校生徒全員に居場所があることを目標に、本年は東部地区の不登校生徒全員に居場所がある状態にする。 ◎高校進学、社会への自立：3名 ◎出席扱い学校数：合計10校（+新規6校） ◎石巻市のSSWや保健師、保護課などの教育機関・行政機関と連携体制の構築 ◎親の会開催：2回 	<ul style="list-style-type: none"> ◎毎週月・木曜日（7月から金曜日も開催）/10：00-16：00 ◎体制：スタッフ2名、アルバイト1名 ◎子ども対応：団欒、学習、料理、スポーツ、ものづくり、海遊び、畑作業など。受験生との個人面談や学習計画立案、面接練習を実施 ◎子ども会議：9回 ◎スタッフ間の処遇会議：月1回 ◎リーフレット2,000部作成親の会などで配布し、ぼはっくの周知を図った。 ◎保護者面談：月1回～2か月に1回 【イベント】：25回 <ul style="list-style-type: none"> ①海でイカダ作り（6月） ②サバイバルキャンプ1泊2日（8月） ③田代島合宿1泊2日（10月） ④秋祭り（11月） ⑤クリスマスパーティー（12月） ⑥合宿（3月） ⑦利用児の誕生日会 など 【地域(学校)連携】 <ul style="list-style-type: none"> ①登録児童生徒の個別記録の提出(計36回)と受験に向けた情報交換、石巻市東部地区の小中学校への活動紹介を実施。 ②地域の人や他のフリースクール利用児童との交流:9回 	<p>【利用児童生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校復帰や社会への自立：5名（高校進学3名、中学進学2名、学校復帰1名） ②登録当初は表情が暗く言葉数も少ない子ども達だが、本会で心の休息をとることで次第に表情が和らぎ自分の意見を言えるようになった。 ③学校復帰後も本会を利用する子から「何かあったらフリースクールに来ればいいんだ」という声上がる。 <p>【地域(学校)連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①出席扱いの学校が2校増えた(計8校) ②秋祭りや田代島合宿、体験活動に協力してくれた地域の人など、多くの大人と関わり繋がれた。また、不登校理解が深まった。 ③1名は本会の継続利用となった。 ④親の会参加者：32名 「親の会を定期的で開催してほしい」「同じ境遇の人と話せるだけで安心感が得られた」「他の人の話を聞くだけでも気持ちが軽くな

内容		③市役所との連携による受け入れ：2名 ④親の会（10月）開催 開催場所：マルホンまきあーとテラス大研修室 第一部 講演会 「不登校は問題行動じゃない」 講師：中村みちよ氏 （フリースペースつなぎ代表理事） 第二部 親の会	った」など多くの反響を得た。 ⑤不登校の居場所や相談窓口に関する情報提供の場となった。
開催回数	103回	139回	
登録者数	22名(+新規6名)	25名（新規9名）	
利用人数	延824名	延582名	
面談相談受入	保護者：延べ 120 件 子ども：16 名	保護者面談 対面式：延35名 電話：延6名	

【来所者のエピソード】

- ・ Aさん（小学4年生/女子）
 半年間本会に通い、心の休息をとることで「学校に行ってみようかな」と自らの意思で復学し、本会と学校を使い分けることができた。
- ・ Yくん（中学2年生/男子）
 仙台に在住のため日常的な通所はできなかったが、キャンプや合宿などのイベントに参加。繋がりを継続したことで子どもと保護者の両方をサポートでき、今春から石巻の学校に通学が決まった。
- ・ Kさん（17歳/女子）
 2年遅れて高校進学を目指し無事合格する。小中学校はほとんど学校に通えず、人との会話もままならなかった生徒だが、コミュニケーションを取れるようになり、職探しや面接練習のサポートを経てアルバイトもできるようになった。

【課題】

- ・ 本事業の周知、情報発信（リーフレット配布、HPの充実）
- ・ 地域資源を一元化した情報提供のための冊子またはサイト

◆放課後児童クラブ事業

2022年度公募に向けて、石巻市役所との打ち合わせや名取市の放課後児童クラブへの研修、内部会議を開くなど準備をおこなった。

◆地域・民間団体との連携事業

●石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

【目的】

石巻全域の子どもが、自らの足で出向ける場所にプレーパーク（居場所）があり、地域で子どもを見守る体制を構築することで、子どもの孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域づくり

	目 標	実 績	成 果
内容	◎7年後までに、石巻市内13か所の子どもの居場所（児童館、プレーパーク）設置を目指し、構成団体や地域住民と連携して、子どもの居場所を増やす。そのために、子どもや保護者の声を行政に届ける。	◎定例会議：7回（事業計画や事業の振り返りなど） ◎プレーパーク見学会：3回 ◎こどもセンターらいつ移動児童館サポート：5回	◎子どもの数が多い蛇田地区に重点をおき、らいつ移動児童館のサポートを行った。これにより町内会と協働でプレーパークを実施し、地域で子どもを見守ることへの認識が高まった。

【課題】

- ・公設公営または公設民営の「子どもの居場所」拡充のために、子どもや保護者、地域住民の声を届ける機会の必要性。

●渡波中学区WWI(わっしよい渡波委員会)

【目的】

渡波中学校区の子どもが地域で見守られ、安心して暮らせる地域をつくる

	目 標	実 績	成 果
内容	◎渡波中学校区(小学校2校、中学校1校)のPTAや民生委員、社会福祉協議会などと「地域の子どもは地域で見守り育てる」を合言葉に、任意団体として地域貢献活動を推進する。	◎定例会議9回 【地域活動サポート】 ①プレーパークわたのは夏祭り（8月） ②鹿妻いりどりマルシェ（9月） ③渡波中学校廃品回収（10月） 【自主活動】 ①肝試し大会（1月/場所：渡波小学校、鹿妻小学校）※コロナにより延期中 ②活動ユニフォーム製作：40枚 ③リーフレット製作：200部	◎構成メンバー：20名（+1名）各校校長・教頭・教員、PTA会長、民生委員、石巻市社会福祉協議会、民間団体など。 ◎今年はコロナウイルス感染症拡大の影響により、学校活動よりも地域活動が多かった。 ◎WWI自主企画や勉強会の企画など、活動が活性化してきた。Tシャツやパンフレットなど、活動周知のためのツールを制作した。

●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

【目 的】

教育機会確保法の理念を基に、宮城県内の民間の団体・教育委員会・行政などのネットワークを構築し、子どもが選択できる多様な居場所が保障される地域社会をつくる

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎不登校支援団体や議員を含む市民が連携し、行政と協働を図るための体制づくりをおこなう。 ◎2022年度フリースクール補助金化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎スタッフ1名配置 ◎定例会議：11回（事業計画、事業振り返り他） ◎宮城県不登校支援連絡会議：3回（主催：宮城県教育委員会） ◎勉強会：3回 特例校、不登校対策意見交換会など 	<ul style="list-style-type: none"> ◎構成団体：16団体（+8団体）キッズドア（仙台市）、manako（宮城教育大学学生サークル） ◎宮城県教育委員会主催の連絡会議では、不登校対応マニュアルの見直しや教育機会確保法周知用リーフレット作成に関する発言の場となり、関係性を深めることができた。

●まずは石巻から不登校という言葉をなくすネットワーク

【目 的】

石巻市内の不登校児童生徒の孤立をなくし、一人ひとりが心と居場所の安定を図ることで自己の未来を切り開く

	目 標	実 績	成 果
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎石巻市内の不登校課題に関心をもつ市民でチームを立ち上げ、不登校児童生徒の現状を把握し、行政と協働でその改善策を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎スタッフ1名配置 ◎定例会議：8回 ◎イベントに関する会議：3回 <p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「“不登校”どうしていいか悩む親御さんの会」（10月） ②親の会（2月） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎構成メンバー：11名 こども支援団体、教員、スクールソーシャルワーカー、県議会議員他 ◎ネットワークのミッション・ビジョンを決定し、不登校をテーマに官民協働で対話していくことを大切にするとした存在意義の共有ができた。 ◎親の会を開催し、当事者の声を聴いたことをきっかけに、定期的な「親の会」開催に向けた意識統一ができた。

(2)子育てサポート事業

●子育て相談

	目 標	実 績	成 果
内容	◎子育て・不登校相談を受け入れ、孤立し悩む保護者の心のケアを行う。	◎面談または電話による相談窓口（事前予約制） ◎プレーパークで子どもを遊ばせながらの「ながら相談」	◎親の会や他団体の相談窓口との連携により、不登校児童生徒をもつ保護者からの相談が増加し対応を行うことができた。 ◎子育てや不登校の我が子への対応にいきづまりを感じ悩む保護者への継続的な相談受け入れが実施できた。
相談件数	150件	面談：延78件 （うち不登校相談：延15件） 電話：延4件 ながら相談：延60件以上 こども相談：延4件以上 合計：延147件以上	

【課題】

- ・子育て相談の人材育成

(3)自然体験プログラム事業

◆Ecoキャンプ“自然とともに”

コロナウイルス感染症拡大により実施なし

(4)前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材育成事業

◆啓発事業

●講師派遣

- ・らいつ移動児童館(子どもセンターらいつ)：5回/7,9,10,12,3月（石の会より）
- ・はぴはぴ講座(子どもセンターらいつ)：3回/6,10,1月/石巻市
- ・東北NPOフォーラム（5月）、オルタナティブ塾（11月）など6回
- ・ミライブラリー：市内高校1校/10月

◆情報発信事業

- ・会報誌“だんごむし”：4回発行 各800部
- ・ブログ：月4～5回配信
- ・SNS（Facebook、Instagram）：週1～2回程度配信

◆人材育成事業

●事業運営スキル向上のためのスタッフ研修

- ・ カウンセリング講座（講師 高橋和巳氏）：2回/ オンライン
- ・ 救命救急講習：8月/石巻市
- ・ 全国児童館・児童クラブ大会：11月/オンライン
- ・ 放課後児童支援員研修：4回/12月/石巻市
- ・ 放課後児童クラブ先進事例を学ぶ：2月/名取市

●組織運営のためのスタッフ研修

- ・ ハラスメント講座
- ・ 認定NPO法人化に向けた研修：4月/仙台市
- ・ NPO法人のための決算書作成講座：4月/オンライン

●外部人材育成

- ・ ボランティア：計10名/延べ22名
- ・ NPO夏のボランティア体験：3日間/6名/8月
- ・ 石巻西高校1年生インターン：2日間/3名/12月
- ・ 石巻専修大学生：13名/11月

(5)その他、本会の目的を達成するために必要な事業

◆主たる活動地域内

- ・ 渡波小学校評議員：1回（他2回はコロナウイルス感染症拡大により中止）
- ・ 鹿妻小学校評議員：2回（うち1回は書面評決）
- ・ 渡波中学校区協働教育協議会会議：1回
- ・ 鹿妻小学校クラブ活動サポート「農村クラブ」：2回/鹿妻

◆石巻市内

- ・ らいつコンソーシアム運営協議会：4回/7,9,12,3月
- ・ 石巻市地域福祉推進委員会：2回（うち1回は書面評決）/5月
- ・ 石巻圏子ども若者支援地域協議会：4回/7,9,11,3月
- ・ 石巻市スクールソーシャルワーカー連絡会議：2回
- ・ 石巻市不登校支援団体懇談会：1回（コロナ感染症拡大のためアンケート調査のみ）
- ・ NPO法人にじいろクレヨン理事会：2回/6,10,12月
- ・ NPO法人こどもにやさしいまちづくり理事会：3回
- ・ いしのまき市民公益連絡会議役員会/総会：8回
- ・ 石巻市都市計画審議会：2回/10,12月

3.事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者	受益者	事業費(円)
①すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業	プレーパーク事業 ・プレーパークわたのは ・鹿妻プレーパークひがこー ・移動式プレーパーク	金・土・日曜 水曜 3回	渡波 鹿妻 石巻市内	4名 2名 1名	幼児 ～高校生 延べ4,931人 地域住民	19,633,481
	フリースクール事業 ・フリースクールぼはっく	火・木・金曜	鹿妻	3名		
	地域・民間団体との連携事業 ・石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会 ・渡波中学区WWI ・多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク ・まずは石巻から不登校という言葉をなくすネットワーク	月1回～2回 9回 月1回～2回 8回	石巻市内 石巻市内 宮城県内 石巻市内	2名 3名 1名 1名	-	
	②子育てサポート事業	子育て・不登校相談	随時	石巻市内	1名	
③自然体験プログラム事業	Ecoキャンプ“自然とともに”	コロナにより休止	-	-	-	-
④前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材	啓発事業 ・講座/研修 ・講演会 情報発信事業 ・会報誌“だんごむし” 4回発行 人材育成事業 ・事業運営スキル向上のための研修 ・組織運営のためのスタッフ研修 ・外部人材育成	通年 通年 通年 (年20回程度)	宮城県 及び 他県	6名 7名 6名	-	792,171
⑤その他、本会の目的を達成するために必要な事業	主たる活動地域内 ・渡波小学校評議員会議 ・鹿妻小学校評議員会議 ・渡波中学校区協働教育協議会 ・鹿妻小学校クラブ活動サポート ・石巻市都市計画審議委員会 ・石巻市社会福祉推進委員会 ・らいつコンソーシアム協議委員会 ・NPO法人こどもにやさしいまちづくり理事 ・NPO法人にじいろクレヨン理事 ・いしのみき市民公益活動連絡会議 理事 など		石巻 市内	1名 1名 1名 1名 1名 1名 1名 1名 1名	-	468,438

(1) 会議に関する事項

理事会の開催：4回

(2) 運営体制

運営に関わるスタッフは以下の通り

代表理事：田中雅子

常勤スタッフ：4名

非常勤スタッフ：2名

アルバイト：1名

(3) 組織基盤強化への取り組み

2022年6月4日に認定NPO法人取得（2021年12月に申請）

認定NPO法人取得という組織基盤強化を図ることで、より一層信頼性を高め持続可能な組織運営を目指す。

(4) 会員

① 正会員 12名（前年-2名）

② 賛助会員 76名（前年+12名）

③ 子ども会員 0名

(5) 地域社会や他団体との連携について

石巻市福祉部子育て支援課・保育課、石巻市都市計画課、石巻市地域協働課、宮城県東部児童相談所、石巻市虐待防止センター、石巻市教育委員会、石巻市社会福祉協議会、石巻市立渡波小学校、石巻市鹿妻小学校、石巻市渡波中学校

公益社団法人 3.11 みらいサポート、(特非) ベビースマイル石巻、(特非) TEDIC、(特非) にじいろクレヨン、(特非) 子どもにやさしいまちづくり、(一社) プレーワーカーズ、(一社) フリースペースつなぎ、(特非) まきばフリースクール、(一社) フリースペース道、ふふふはうす

など連携団体は多数